

第1項 平成29事業年度の業務実績に関する全体評価案

評価結果

全体として年度計画及び中期計画のとおり順調に進捗している

大項目評価及び小項目評価

項目	配点	評価点	小項目評価					大項目評価
			5	4	3	2	1	
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上(17項目)	155点	109点	1項目	4項目	12項目			S 特に評価すべき進捗状況にある
第2 業務運営の改善及び効率化(5項目)	40点	26点		1項目	4項目			A 順調に進んでいる
第3 財務内容の改善(6項目)	55点	40点		3項目	3項目			A 順調に進んでいる
第4 その他業務運営に関する重要事項(3項目)	25点	18点		1項目	2項目			A 順調に進んでいる

* 評価項目の中で、「市民病院としての公的役割を果たす上での重要項目」及び「平成29年度計画重点項目」についてウェイト付けをしており、小項目評価の点数に乗じて得点を算出している。

* 小項目評価

- 5・・・年度計画を大幅に上回って実施。
- 4・・・年度計画を上回って実施。
- 3・・・年度計画を順調に実施。
- 2・・・年度計画を十分に実施できていない。
- 1・・・年度計画を大幅に下回っている。

* 大項目評価

- S：中期目標・中期計画の達成に向けて、計画を大幅に上回り、特に評価すべき進捗状況にある（A評価基準を満たし、得点率が7割以上かつ小項目評価に5がある）
- A：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる（得点率が6割以上かつ全ての小項目評価が3以上である）
- B：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる（「得点率が5割台である」又は「得点率が6割以上であっても小項目評価に1・2がある」）
- C：中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている（得点率が4割台である）
- D：中期目標・中期計画の達成のためには大幅に遅れている又は重大な改善すべき事項がある（得点率が4割台に達しない）

判断理由

神戸市民病院機構は、地方独立行政法人法に基づき、市民の立場に立った質の高い医療を安全に提供し、もって市民の信頼に応え、市民の生命と健康を守ることを目的としている。

第2期中期目標期間においては、効率的な病院運営のもと、救急医療・感染症医療の提供と高度・専門医療の充実、市民・患者ニーズに応じたサービスの提供、地域の医療機関等との連携強化、活気があふれ職員が働きやすくやりがいを持てる環境の整備、長期的視点に立った質の高い経営を重点項目として取り組むこととしている。

これらの達成に向け、理事長のリーダーシップのもと、質の高い医療を安全に市民に提供するという市民病院としての役割を果たすための効果的な取り組みが行われており、平成29事業年度の業務実績に関する評価については「全体として年度計画及び中期計画のとおり順調に進捗している」とした。

第2期中期目標期間において、平成29年度は主に以下の取り組みを実施し、病院機能の強化に積極的に取り組んだ。

- 4月に西神戸医療センターが移管され、11月には先端医療センター病院を中央市民病院と統合し、さらに12月1日から神戸アイセンター病院を開院し、4病院体制となった。神戸市の基幹病院・中核病院、眼科領域における高度・専門病院として、地域医療機関との連携及び役割分担のもと、それぞれの特徴を生かした医療サービスを提供した。
- 中央市民病院では、神戸市全域の基幹病院・救命救急センターとして、救急受入体制を非常に高い水準で維持し、「断らない救急」を実行し、厚生労働省が実施する「全国救命救急センター評価」において総合評価で4年連続全国1位となった。また、西市民病院と西神戸医療センターでは、院内救急体制の改善を図り、24時間体制の救急医療を着実に提供し、3病院ともに救急車搬送の応需率が前年度を上回った。
- 医療を取り巻く環境が厳しさを増す中、各病院においてはDPC^{※1}データ活用や適切な病床運用の徹底などによる効率的・効果的な病院運営や収入確保に努めた結果、平成29年度の経常損益は、法人全体で250百万円となり、3年ぶりの黒字を達成した。

※1 DPC (Diagnosis Procedure Combination ・診断群分類包括評価)

従来の診療行為ごとに料金を計算する「出来高払い」診療報酬請求方式とは異なり、入院患者の医療資源を最も投入した病気とその病状・治療行為をもとに厚生労働省が定めた1日当たりの金額からなる包括評価部分(投薬、注射、処置、入院料等)と出来高評価部分(手術、麻酔、リハビリ、指導料等)を組み合わせで計算する請求方式のこと。